

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670400013		
法人名	社会福祉法人 双葉会		
事業所名	双葉会高齢者グループホーム		
所在地	徳島県阿南市見能林町南林260-15		
自己評価作成日	平成24年9月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成24年11月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生命の安全を第一に考え、入居者の笑顔が日々たえない生活を、と共に職員も笑顔のたえない毎日であるようにつとめている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では、利用者一人ひとりの人権を尊重し、皆が平等であるとの考えのもと支援している。事業所の行事では、近隣住民の参加を得ており、利用者とともに楽しんでもらっている。地域の子も達による来訪を受け入れており、利用者との交流を図っている。月1回、職場内研修を開催し、“家庭のような施設にしよう”を念頭にいて研修や意見交換を実施している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			双葉会高齢者グループホーム 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	作り上げ実践している。	朝礼時に、管理者から全職員へ“無条件の尊重”や“人間のつながり”について伝達し、職員間で共有化を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	努めている。	公民館の行事へ参加している。地域の自主防災組織との協力体制を構築したり、小・中学校の卒業時期に生徒と交流する機会をもったりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の各種役員を進んで引き受けている。高齢者福祉をテーマに地域座談会をもって話し合いを行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活かしている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。家族の代表や地域住民、市担当者等の多くの出席者を得ている。会議では、事業所の状況報告や意見交換等を行っており、積極的にサービスの質の向上に繋げるよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	その様に取り組んでいる。	市担当窓口へ出向いて、事業所の取り組み状況を報告したり、運営に関する相談や意見交換を行ったりして、相互に協力関係を構築している。必要に応じて連絡をとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしない。取り組んでいる。鍵はかけていない。	事業所では、身体拘束をしないケアについて話しあう機会を設けるなどして、全職員で共有化を図っている。つねに玄関を開錠し、利用者の自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員勉強会や外部研修会に参加。マニュアルも作成し周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			双葉会高齢者グループホーム 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	マニュアルを通して職員会、勉強会で勉強している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書に基づき、十分な説明を行い理解し、納得していただき署名捺印をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	反映させている。	少なくとも月1回は事業所へ来訪してもらえるよう家族と話しあっている。家族の来訪時、意見や要望を出してもらっている。出された意見等について職員間で話しあい、介護計画への反映についても検討している。玄関に意見箱を設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	反映させている。	管理者と職員は、運営面やサービス等について話うことのできる関係を構築している。個別の連絡ノートを設け、相談や悩み等の言いにくいこと、毎日の出来事、疑問等について意見交換を行っている。職員から出された意見や提案等は、代表者へ伝達して運営面へ反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	つとめている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を立てて、外部研修会に参加したり、内部での勉強会、各部研修会がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	特にしていないが、双葉会には小規模多機能型の施設もあり、双葉会の中でいろいろ話し合い、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			双葉会高齢者グループホーム 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談時にご家族とも一緒によく話を聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会に来られた時など、十分な話し合いによりご家族の気持ち、求められている事を受け止めるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要ならば対応に努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員とお年寄りの関係は、上でも下でもなく五分と五分、日常生活の中で職員と同行し教えたり教えられたり、また助けたり助けられたりしながら関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との話し合いの中でその思いを自分のこととして受け止め、家族の代わりにしてあげられることをするという気持ちで介護している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	支援している。	利用者の友人・知人の来訪がある。また、同一法人の運営する他サービス事業所の利用者との交流を支援している。クリスマス会や餅つきなどの事業所の行事に地域住民の協力を得ており、利用者は馴染み人との交流を楽しんでいる。また、利用者一人ひとりの住み慣れた場所への外出や馴染みの美容院の利用等も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	「いつもみんな家族」をモットーにしているので、他の方の居室でお話をしたり、時には散歩で車椅子を押して下さったり、みんなで助け合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			双葉会高齢者グループホーム 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今のところ対象がない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	検討している。	利用者一人ひとりの思いを大切に支援している。利用者は、事業所の畑で農作業を行ったり、散歩を楽しんだりしている。日ごろから、利用者は時間にとらわれることなく自由に暮らしている。意向の把握が困難な場合には、関係者間で話しあって本人本位の視点にたった支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や暮らし方、大切な経験を聞き出し、それを介護にいかしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスや担当者会議を設け、ご家族の意見も交えて、その人にあつた介護計画を作成している。	日ごろの利用者との関わりのなかで、職員の気づいたことや意見等を計画書に反映させている。本人や家族、関係者間で話しあいを行い、利用者のより良い生活の実現に向けた介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録がありその情報を共有し、介護計画の見直しにいかしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアハウスのカラオケクラブ、童謡クラブ、美容講習などに参加希望の人は参加されているし、ケアハウスの友人と野交遊をされている人もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			双葉会高齢者グループホーム 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援している。2週間に1回協力医の往診、かかりつけ医への受診等、その都度全体の病気、健康管理などの助言をいただいている。	利用者のかかりつけ医による往診がある。家族の協力を得て、専門医等への受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時は、面会を欠かさず、常に医師、ご家族と連絡を取り、早期退院に向けて情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の希望を取り入れ、かかりつけ医と繰り返し繰り返し話し合い共有している。	重度化した場合や終末期のあり方に関する勉強会を開催し、職員間で話しあっている。事業所に対応しうることについて、本人や家族と話しあいを重ねている。協力医療機関とも連携を図って取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難マニュアルを作成している。ケアハウスとも連携し取組み、近隣の方には、非常時協力してもらうように連絡している。また災害時は避難場所に双葉会を使用してもらうようにしている。	年2回、避難訓練を実施している。事業所は地域の災害時避難場所となっている。地域の自主防災組織や近隣住民との協力体制を構築している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			双葉会高齢者グループホーム 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	マニュアルを作成し取り扱っている。対応できている。	利用者のプライバシー保護に関するマニュアルを作成し、職場内研修で共有化を図っている。利用者のプライバシーに配慮し、入浴や排泄介助時等の声かけなどに配慮している	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者一人ひとりが自分の思いや希望を表すことを大切にし、それを促すよう取り組みを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その様にしている。常に入居者中心に暮らしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性を大切に服装、髪形に気をつけ、おしゃれを支援している。月1回の美容講習に参加、お化粧品やマニキュアを楽しまれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できている。	利用者一人ひとりの能力に応じ、机拭きや配膳の準備、片づけ、調理手伝い等の役割を担ってもらっている。利用者は、おやつのたこ焼き作りや焼きそば作りなどを楽しく行っている。気候の良い季節には、事業所の庭で食事を楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士がお年寄りの希望も入れて立てている。食事摂取量、水分摂取量は記録し、一日を通して確保できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後ケアし支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			双葉会高齢者グループホーム 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンチェック表を用い、一人ひとりの習慣をいかして支援している。	利用者一人ひとりの習慣を把握し、自立に向けた支援を行っている。利用者の身体状況等に留意してパンツとオムツを使い分けている。夜間は、トイレへの誘導を行うことにより、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックシートにより、一人ひとりのパターンを把握し身体を動かさずことや、飲食物の工夫を行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	くつろいだ入浴ができるよう支援している。入浴用車椅子の使用や、仲のいい人とのゆっくりした入浴など希望を取り入れている。	週3回の入浴を基本としているが、本人の希望や体調により対応している。利用者一人ひとりに希望を聞き、ゆっくりと入浴を楽しむことができるよう一人ひとりにそった支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンを把握している。休息のため、毎日1時間くらいの午睡をされている人もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は看護師が配薬し、ご本人を確認の上、ゴクンと飲み込まれるまでケアしている。職員はマニュアルによって、薬の目的、副作用、用法、用量等服薬について理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴やそれぞれの力をいかした役割分担を決めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望に基づき、敷地が広いので好きな所へ散歩に行ったり、お花見や近隣へ出かけている。	利用者は、近隣の神社へ参拝に出かけたり、海岸へ散歩に出かけたりしている。利用者の体力に考慮しつつ、地元との交流を図ることができるよう支援している。公民館の文化祭や講演会等にも積極的に参加している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			双葉会高齢者グループホーム 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気であるように工夫している。	玄関に季節の花を生けるなどして家庭的な雰囲気に留意している。事業所内の床にカーペットを敷くなどして、利用者の安全面とぬくもりに留意している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	長椅子やソファを置いたりまた、食事のテーブルも色々組み合わせができるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を置いたり、お仏壇を持って来ている人もいます。	利用者が居心地良く過ごすことができるよう、使い慣れた家具や好みの衣類等を持ち込んでもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全フロアーをカーペット、要所の手摺りの設置等それぞれの身体機能を生かすよう工夫している。		